

# 30P1-am002

OSCEトライアルに向けた学内標準模擬患者(SP)養成のための研修効果に関する検討

○有田 悦子<sup>1</sup>, 望月 真弓<sup>1</sup>, 坂部 貢<sup>1</sup>, 小宮山 貴子<sup>1</sup>, 猪腰 淳嗣<sup>1</sup>, 城戸 美好<sup>1</sup>,  
西野 貴司<sup>1</sup>, 津田 泰之<sup>1</sup>, 尾鳥 勝也<sup>1</sup>, 塩野 薫<sup>1</sup>, 高野 修平<sup>1</sup>, 平山 武司<sup>1</sup>,  
石井 邦雄<sup>1</sup>, 梶 英輔<sup>1</sup>(<sup>1</sup>北里大薬)

【目的】客観的臨床能力試験(OSCE)における医療面接課題実施のためには標準模擬患者(Standardized Patient)が必要不可欠であり、現在各大学はその養成に苦慮している。将来、全国レベルでOSCEが実施されるようになると、標準模擬患者としてかなりの人数が必要になると考えられ、大学間での共有も検討されているところである。医療人のコミュニケーション教育に重要な役割を果たす模擬患者(Simulated Patient)には患者心理を体現できる高度な演技力が期待されているが、OSCEにおける評価を目的とした標準模擬患者には、シナリオに沿った一定の演技が重視される。そこで本学薬学部では第1回OSCEトライアルに向けた一つの試みとして、学内の基礎薬学系教員及び事務職員を対象とした「標準模擬患者養成研修会」を実施したので、その成果と今後の課題について報告する。

【方法】研修会は基礎薬学系教員27名、事務職員6名を対象として実施した。OSCEや標準模擬患者に関する小講義、臨床薬学系教員によるデモンストレーションの後、5~6名のグループに分かれ、OSCEで必要となるロールプレイ、評価、フィードバック練習を行った。薬剤師役は関連病院の薬剤師6名に協力してもらい、OSCEトライアル対策小委員会メンバーがファシリテーターとして進行役を務めた。研修効果を評価するためにプレ・ポストテスト及びアンケート調査を実施した。

【結果・考察】プレテストに比べポストテストでは、総合得点に加え、SPの定義、SPの役割、フィードバック時の注意点の各項目の得点がいずれも有意に上昇していた( $P<0.01$ )。アンケート結果から、研修は役に立った(100%)、SPとして参加できる(65%)との回答を得た。この研修会によって、学内全体にOSCEへの理解と参加意欲が高まったことが一番の収穫であったと考える。